

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890700447		
法人名	メイブルケア有限会社		
事業所名	グループホーム楓		
所在地	福井市大宮4丁目13番1号		
自己評価作成日	平成24年11月22日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域活動に力を入れ、地域の神社の祭りに参加したり、公民館祭りに参加、グループホームの防火訓練のみならず、防災訓練に参加などして、地域に密着した活動参加をしている。
 ・ホーム内では、家族のような雰囲気、その人らしさのびのびと暮らせる、心地いい居場所づくり、「できないことはない」という考えのもと、利用者それぞれが「できるレベル」で取り組み、自分の力で生活することを支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、芦原街道沿いの学生など人通りが多い住宅地に立地しており、近くには交番や整形外科病院、公園がある。ホームの広い玄関は日当たりがよく、晴れの日には屋外でラジオ体操もできる。会社理念である「私たちは安心・信頼・貢献できる施設をめざします」に加えて、ホームの基本理念「私たちは利用者様の人権を尊重し一人ひとりの自立を支える環境と地域に愛されるホームを目指します」を職員と共に作成し、日々理念の実践に努めている。また、ホームの会議室を自治会に提供したり、地域の防災訓練への参加や中学生の職場研修、ボランティアの受け入れなど交流を図りながら地域に開かれた施設づくりに努めている。管理者をはじめ職員は家庭的で人間味あふれる気遣いで利用者支援しており、利用者それぞれが「できるレベル」で自身の力を活かして生活できるようサポートしている事業所である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.jp/houkoku/18/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成24年	12月	3日

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、ホーム内に掲示し、ミーティングで話し合い日々の生活を通し、理念の実現に向けて努力している。	経営理念に加え、職員で作上げたホーム独自の基本理念を外来者や職員にわかるよう玄関や事務所、ホールに掲示している。また、管理者がスタッフ会議等で理念の大切さを職員に伝え、職員はその実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の行事に利用者と参加している。自治会の避難訓練にも参加している。	自治会に加入しており、行政広報や回覧板で地元情報を把握している。また、ホームの会議室を自治会に提供したり、公民館まつりに利用者と共に参加したり、自治会の避難訓練に参加するなど地域住民との交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物や公園までの散歩など、野外に出てもらい安心して暮らしていけるよう取り組んでいる。地域のお祭りで子供神輿に来ていただき、交流を深めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告をするとともに、参加者の方々からの質問、意見、要望を受け、サービス向上に生かしている。	自治会長、公民館長、地域包括支援センター、民生委員、家族代表の参加を得て2か月毎に開催しており、事故やヒヤリハット等運営状況を報告している。なお、会議では参加者からは活発に意見が交わされ、出された意見を検討し運営に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市介護保険課の職員と密接に連絡を取り、分からない点などをお聞きしている。また、地域包括支援センター職員に事業所運営の相談にのっていただいている。介護相談員は2か月に1度訪問している。	市職員や地域包括支援センター職員に相談したり連絡を取るなど密接に連携している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を契約書に掲げており、スタッフに対しても身体拘束をしないように全員で取り組んでいる。また、玄関の施錠はしていない。	管理者は身体拘束禁止について、会議や申し送りの際にマニュアルに添って職員に伝えるなど周知徹底を図っている。なお、玄関は日中開放しており、職員は見守りで対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフには研修や勉強会に参加してもらい、日常生活に於いても虐待行為に当たるような対応が行われないように常に気を張り指導し、また勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	最近研修に行き学んできたところです。実際に成年後見制度申請中の入居者様がいらしゃるので支援できるように、これから伝えていきます。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容を十分に説明し、疑問点などについて説明している。家族の不安や希望などは記録に残しサービスに反映させている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、家族からの意見は、今のところない。又直接家族相談はあり、介護記録に記載してスタッフ全員に周知している。	家族の意見や要望は家族会議で聞いており、内容を記録して職員全員で共有し、得られた意見を運営に活かしている。また、広報誌や意見箱でも家族の意見や要望を求めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を月1回開き意見交換をしている。改善などスタッフに意見を聞いて、改善している。	月1回、職員全員参加のスタッフ会議で職員の意見・要望を聞いており、活発な意見交換が行われている。なお、「利用者の利」になる提案は速やかに検討して実行するなど運営に活かしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今の勤務体制で不満はないか 今の現状で良いのかを、個別に対応し話し合いをした。記録はない。今後記録は記載する。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自に合った研修の参加、資格等への挑戦も随時促している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、職員が交代で他事業所との意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず面談を行い生活の状況や心身の状態を把握している。本人の思いを尊重し安心して過ごせるように居場所づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いをしっかりと受け止め、これまでの経緯や不安を踏まえて、密な関係を保てるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思い、状況を確認した上で一日でも早くホームの生活に慣れていただくよう努めている。又ボランティアの方々や、訪問マッサージなどを取り入れている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と一緒に買い物に行き、料理を決めたり調理を共にして、食事を楽しんだり、また居室の掃除も時間を決めて、みんなで一緒にしている。家庭菜園なども楽しんでいる。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者に変化があれば、ご家族に密に連絡し、本人の思い、家族の思いを尊重しながら対応して本人を支えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には気軽に来訪していただける雰囲気を作り、主治医である病院にも行かれています。また希望があれば馴染みの美容室にも行って頂いている。	馴染みの友人や親戚、家族が気軽に訪問できるような雰囲気づくりに努めている。また、家族の協力を得ながら利用者の外泊、外食などを支援するなどこれまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の皆さんと一緒に計算ドリルをして、答え合わせをしたり、おやつ作りを楽しんだりする中で、自然に支えあう気持ちが芽生えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族の相談に乗ったり、できる限りの対応を行っているが記録はない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の思いを引き出すような言葉かけや会話を心掛けている。心理面でも思いを汲み取るように努めている。	利用者の思いは、日頃の関わりの中で会話や表情、行動から汲み取るよう努めている。また、やさしく寄り添って利用者の想いを引き出すような声掛けに努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族や関係者からこれまでの経緯や生活歴暮らし方等の情報を収集し把握している。入居後もご家族や本人からも情報を収集している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の一日の生活のペースやリズム、体調を把握するよう心掛けている。日々の生活の中で、できること・できそうなことを見つけるよう努力している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしさを大切にした介護計画の作成に心掛けている。また、本人や家族、ケアスタッフの意見や思いを受け入れ反映させるように作成している。	センター方式を活用しつつ職員の意見を聞いて介護計画を作成している。ケアカンファレンスでの気付きや介護日誌に家族や医師からの情報もふまえて柔軟に見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの内容に沿ったケアを実施し、その結果を毎日ケース記録に記入している。記録やアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行い3か月に一回見直しを行い新たな介護計画を作成している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状態に応じて通院、買い物等の支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の協力を得て、様々な催しや作業を楽しむ機会を作っている。地域の祭り等にも参加している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多賀内科との連携を取り、往診も定期的に行っている。連携医以外の受診を希望されるときはご家族同行の受診をお願いしているが、不可能な時にはスタッフが同行している。	基本的に提携医以外の受診は家族同行としているが、必要に応じ家族の同意を得て職員が同行している。また、2週間毎に提携医の往診もある。なお、利用者毎に医療情報をファイルにまとめており、他科受診の際に活かしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に入居者の健康状態や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を提供をし、毎日管理者が様子を見に行き、医療関係、ご家族と連携を取り、早期に退院できるように取り組んでいる。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応しえるケアについての説明を行っている。本人の気持ちを大切に、家族と話し合い、本人が安心して終末期を迎えられるように支援する。	現時点で看取りに近い状況を実践しており、本人・家族の意向を確認し医師の協力を得ながら終末期を支援する意向である。また、職員は看取り等の外部研修等にも参加している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全てのスタッフが年一回の救急救命の講習を受けている。また、マニュアルを作成しスタッフへの周知を図っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年二回の避難訓練を入居者と共に、夜勤間想定で行っている。運営推進会議で地域の協力をお願いし、地域の防災訓練にも参加している。	年2回、夜間想定も含めた災害避難訓練を実施している。運営推進会議で地域の協力を依頼しており、近隣病院との応援体制も築いている。また、地域の防災訓練にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人のプライバシーやプライドが守れるよう日々のケアの中で心掛け入居者の尊厳を損なうような対応があった場合には管理者が指導し、適切な声かけができるように努力している。	人権尊重の基本理念を掲げており、利用者のプライバシーや尊厳に配慮しながら家族のように接するよう心がけている。管理者は職員の利用者に対する接遇を重視し、言葉遣いや対応が不適切な場合は、その都度指導している。	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損わないよう接遇マニュアルの充実や内部研修の実施、外部研修への参加など事業所職員全員が向上する取組を期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを尊重し、本人がやりたい仕事や、物づくりなど実現できるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは一応決まっているが、その日の一人一人の体調や気分に合わせて生活ができるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人好みの服を自由に着て頂いている。訪問美容室を利用したり、希望者には馴染みの美容室へ行ける様支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等は入居者と共に行っている。スタッフ、入居者が同じテーブルを囲んで同じ食事を楽しく食べられるように家庭的な雰囲気作りをしている。	職員、利用者が同じテーブルを囲んで一緒に同じ食事を楽しく食べる家庭的な雰囲気となっている。利用者は職員とともに調理、盛り付け、片付け等出来ることに関わっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎日把握し記録している。水分はいつでも気軽に取れるような工夫とおやつ時や就寝前の補給に配慮しながら1日1500ml以上摂取している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方はして頂き、声掛け介助が必要な方には声掛けしたり、見守り介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの入居者が自立している。たまに、トイレ行くことを忘れる方がおられるため、廊下歩行時、気づいてもらえるように配慮し、トイレに行ってもらっている。	排泄はほとんどの利用者が自立しており、トイレで排泄している。利用者個々の排泄パターンを把握しており、トイレに行くことを忘れた方にはさりげなく気づくよう支援している。また、トイレは3か所あり、利用者にわかりやすく表示している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、果物、繊維質の多い食材を使い、水分も時間を決めて摂取できるようにし、毎朝、ヨーグルトを提供している。廊下歩行、体操も取り入れている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は一応決まっているが、希望者には入浴日でなくても入浴してもらっている。	入浴は日曜日を除いた午後を基本としているが、利用者の希望に応じ柔軟に対応している。入浴を拒否する場合は、言葉で誘導したりシャワー浴に変更するなど利用者に応じて工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整え、スムーズな入眠につなげている。日中も疲れが見られたり、希望する人は休息できるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の処方箋は個人のケース記録に綴り、スタッフが内容を把握できるようにしている。状態の変化が見られた時は、詳しく記録して主治医に相談している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野では一人一人の力を発揮してもらえるようお願いし、できそうな仕事は頼み、感謝の気持ちを伝えている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日には散歩や買い物に出かけている。年間行事計画を作成し、遠足等・月一回は実行している。地域の協力を得て公民館祭り等にも参加している。	利用者2名につき職員1名が付き添って日常の買い物や散歩などに出かけている。また、公民館祭りや水族館、花見、いも掘りなど、施設全体の外出も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はしていないが、家族の了解を得て、外出に出かけ、お小遣いで個々に支払いをしてもらう予定である。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かけたい時にかけられるように支援したり、かかってきた電話には会話しやすいように支援している。また、手紙や葉書のやり取りも支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所からは、調理の音やにおいがしている。旬の食材を取り入れ、季節感を取り入れている。季節に応じた掲示物をしている。	ホールは明るくやさしい色合いで、広いフロアにはテーブルやソファが置かれ、利用者はゆったりとくつろぐことができる。居室までの廊下も広く、壁面には遠足の写真や利用者の習字などの作品が掲示され、家庭的な雰囲気となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下の奥にもソファを設置し、一人で過ごしたり、仲の良い人同士で集まって過ごしたりできるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	こちらで用意してあるタンス・ベッド以外は今まで家で使われていたものをそのまま持って来て頂いている。本人が家のように居心地良く過ごせるように支援している。	居室には利用者が持ちこんだ、馴染みの写真やぬいぐるみが多数飾られ、利用者の個性が表れた居心地の良い空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわからない人には個別のネームを取り付けたり、トイレの場所がわかるように目印を付けている。		